

書名	松原の教育 昭和 60 年度版
書名かな	まつばらのきょういく しょうわ 60 ねんどばん
編著者名	管理部総務課（編）、社会教育部社会教育課社会教育係
編集機関	松原市教育委員会
発行機関	松原市教育委員会
発行年月日	1986 年 3 月
郵便番号	580-8501
電話番号	072-334-1550
住所	大阪府松原市阿保 1-1-1
備考	文化財に関する頁及び奥付のみを電子化。

PDF ファイル制作日：2021 年 11 月 18 日

PDF ファイル制作者：松原市教育委員会事務局 教育総務部 文化財課

## 5. 文化財保護

### (1) 文化財保護の意義

戦後、わたしたちの生活は大きな変化を遂げてきた。そしてわたしたちをとりまく環境も大きく変化してきている。

高度経済成長のうねりのなかで、近代的で文化的な生活を営むという目標とはうらはらに、公害・騒音・住宅事情の悪化・自然破壊など、枚挙にいとまがないほど生活環境は悪化し、様々な社会問題を生み出している。

このような社会の急激な変化は、文化財にもまた深刻な影響を投げかけている。大規模な開発や、蚕食的な無秩序開発によって、町の装は一変し、地中や水底に眠る埋蔵文化財は破壊され、代々受け継がれてきた伝統や、慣習は見捨てられ、打ちこわされて、記憶のなかからさえも忘れ去られようとしている。

しかし、激動する今日の社会のなかで、ともすれば現在にのみ目を奪われがちな我々ではあるが、我々の現在は忽然としてあらわれたものではなく、長い歴史のなかで生まれ、生み出されたものであるということを考え直さずにはいられない。

わたしたちは、正しく過去を理解し、現在を見つめて、明日に生きねばならないし、その意味で文化財は、我々の過去を知り、明日に生きる手掛りであり、人類が悠久の時間のなかで築き上げた財産である。

また、このように過去から未来にわたる人類の文化という立体的な厚みの中で生きる我々にとって、そのような豊かさをともなった生活こそ、真に文化的な生活といえる。

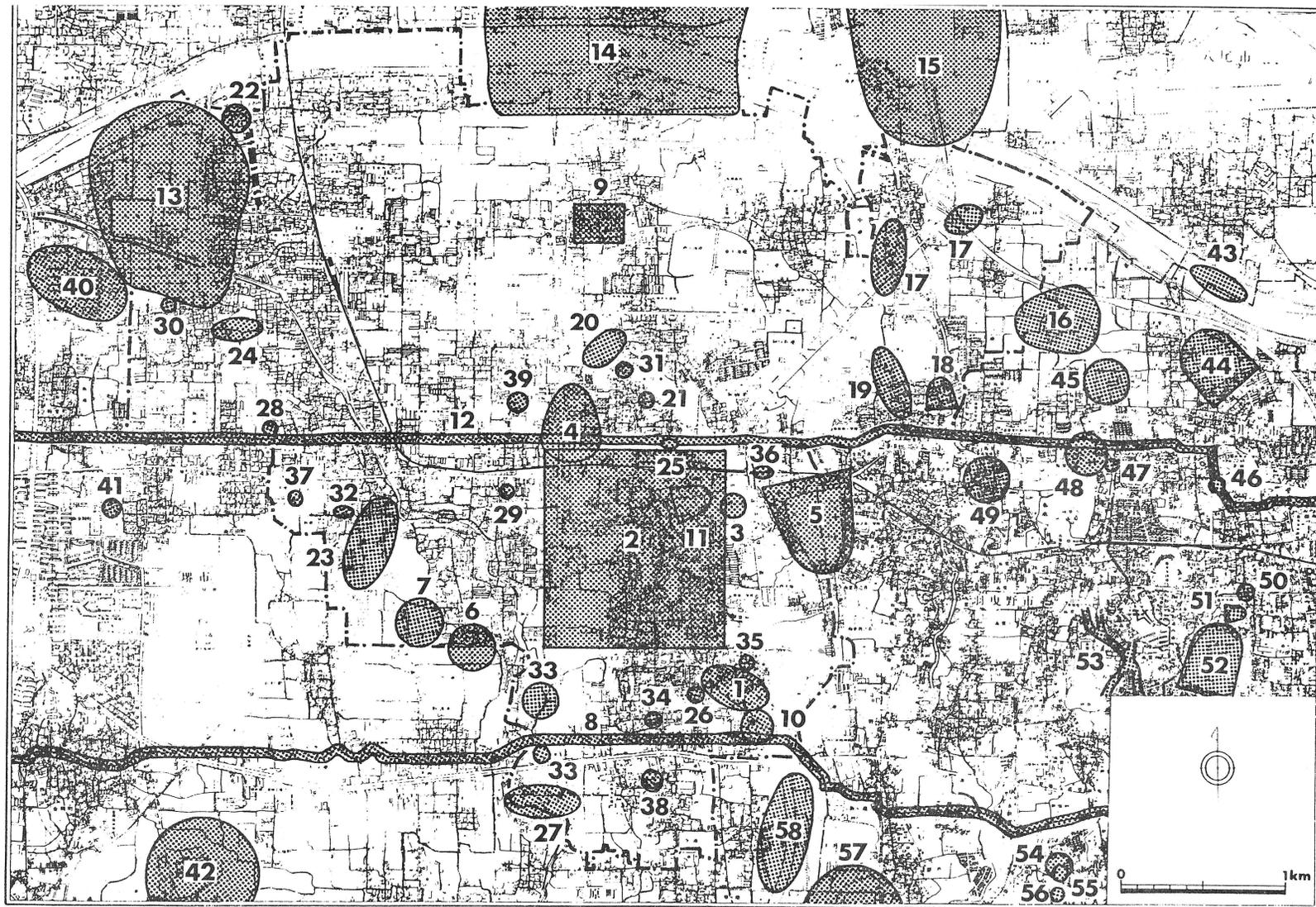
文化財は保護の手をさしのべなければ確実に消えていく。

わたしたちは、今に生きる歴史の開拓者であるとともに、わたしたちの残した遺産（文化財）の保護者でなければならない。

### (2) 指定文化財・周知の埋蔵文化財包蔵地

#### ① 大阪府文化財保護条例による指定文化財

種別	名称	所在地	所有者
天然記念物	来迎寺のいぶき	丹南3丁目1番22号	来迎寺（塩野泰通）



遺跡分布圖

② 埋蔵文化財包蔵地一覧

№	名 称	所 在 地	遺跡の種類	摘 要
1	立 部 遺 跡	立部1・2丁目	奈良時代散布他	土師器が多量に出土
2	丹比柴籬宮跡	上田、新堂、紫垣	古墳時代宮殿跡	反正天皇の宮推定地。 範囲内からは縄文～近代に至る各時期の遺構が検出されている。
3	樋野ヶ池窯跡	上田6丁目	古墳時代 須恵器窯跡	6世紀の須恵器窯跡。 開発が目前に迫り、消滅寸前の状態である。
4	上田町遺跡	上田、阿保	古墳時代 集 落 跡	昭和47年松原郵便局新築工事に伴って発見。
5	大塚山古墳	西大塚1丁目	前方後円墳	雄略天皇陵と比定されている。
6	河 合 遺 跡	河 合	弥生～古墳時代 土 器 散 布 地	古くから、弥生土器、石鏃等の出土が知られる。
7	河 合 西 遺 跡	河 合		
8	丹比道(竹之内街道)		奈良時代 古道	
9	三 宅 遺 跡	三 宅	古墳時代 屯 倉 推 定 地	「依羅屯倉」推定地。
10	観 音 寺 跡	立 部 2 丁 目	平安時代寺院跡	
11	山ノ内古墳	上田5丁目	前方後円墳	全壊。
12	大津道(長尾街道)		奈良時代 古道	
13	大和川今池遺跡	天美西・天美我堂	古墳時代集落跡	昭和52年下水処理場建設に伴い発見。
14	瓜 破 遺 跡	三 宅	弥生時代集落跡	
15	長 原 遺 跡	大 堀 町	縄文～室町時代 集 落 跡	
16	津 堂 遺 跡	小 川 町		
17	大堀町所在遺跡	大 堀 町	古墳～奈良時代 集 落 跡	昭和59年堤防改修等に伴い発見。
18	一 津 屋 古 墳	一 津 屋 町	前方後円墳	現在墳頂には巖島神社が建っている。
19	一津屋町所在遺跡	一 津 屋 町	古墳～室町時代 集 落 跡	昭和59年共同住宅建設に伴い発見。
20	阿保2丁目所在遺跡	阿 保 2 丁 目	古墳時代集落跡	昭和58年分譲住宅建設に伴い発見。

№	名 称	所 在 地	遺跡の種類	摘 要
21	阿保4丁目所在遺跡	阿保4丁目	古墳～奈良時代 集 落 跡	昭和59年分譲住宅建設に伴い発見。
22	天美西3丁目所在遺跡	天美西3丁目	弥生～鎌倉時代 集 落 跡	昭和58年下水道工事に伴い発見。
23	南新町遺跡	南新町、河合	古墳～奈良時代 土器散布地	昭和56年下水道工事に伴い発見。
24	北新町4・5丁目所在 遺 跡	北新町4・5丁目	弥生～鎌倉時代 集 落 跡	昭和59年下水道工事に伴い発見。
25	上田2丁目所在遺跡	上田2丁目	鎌倉時代集落跡	昭和59年分譲住宅建設に伴い発見。
26	岡4丁目所在遺跡	岡4丁目	鎌倉～室町時代 集 落 跡	昭和59年分譲住宅建設に伴い発見。
27	丹南1丁目所在遺跡	丹南1丁目	鎌倉～室町時代 集 落 跡	昭和59年倉庫建設に伴い発見。
28	北新町6丁目所在遺跡	北新町6丁目	平安～室町時代 土器散布地	昭和59年共同住宅建設に伴い発見。
29	高見の里4丁目所在 遺 跡	高見の里4丁目	弥生～古墳時代 集 落 跡	昭和59年分譲住宅建設に伴い発見。
30	天美我堂6丁目所在 遺 跡	天美我堂6丁目	近世 ～ 近代 集 落 跡	昭和60年分譲住宅建設に伴い発見。
31	阿保5丁目所在遺跡	阿保5丁目	鎌倉時代集落跡	昭和59年共同住宅建設に伴い発見。
32	南新町2・3丁目所在 遺 跡	南新町2・3丁目 地 内	中世散布地	昭和59年下水道工事に伴い発見。
33	岡7丁目所在遺跡	岡7丁目地内	弥生時代～中世 集 落 跡	昭和60年総合運動広場建設に伴い発見。
34	岡5丁目所在遺跡	岡5丁目	平安時代～近世 集 落 跡	昭和60年分譲住宅建設に伴い発見。
35	立部2丁目所在遺跡	立部2丁目	中世～近世 集 落 跡	昭和60年防火水槽建設に伴い発見。
36	西大塚1丁目所在 遺 跡	西大塚1丁目	中世集落跡	昭和60年店舗建設に伴い発見。
37	南新町4丁目所在 遺 跡	南新町4丁目	古墳時代集落跡	昭和60年住宅建設に伴い発見。
38	丹南3丁目所在遺跡	丹南3丁目	平安時代～近世 集 落 跡	昭和60年工場建設に伴い発見。
39	田井城3丁目所在 遺 跡	田井城3丁目	古墳時代～中世 集落跡 水田址	昭和60年プール建設に伴い発見。
40 ? 58	松原市周辺遺跡			

### (3) 埋蔵文化財

「文化財保護法」に基づき、遺跡の範囲で土木工事等を行う場合は、発掘届出書の提出と調査が必要なことは、広く周知されているが、本市では「開発指導要綱」に基づき、遺跡の範囲外での工事についても、試掘調査を実施し、遺跡の発見及び開発事業との円滑な調整に努めている。しかし、市内における土木工事等の届出は、年々増加する傾向にあり、これに伴う大小様々な開発行為によって、遺跡の保護、保存は困難な状況にある。

表① 発掘届出・通知件数

種別 \ 年度	昭 55	5 6	5 7	5 8	5 9	6 0
慎重施行	—	72	146	190	191	253
立会調査	58	18	10	10	4	19
発掘調査	65	50	96	83	78	120
合計	123	140	252	283	273	392

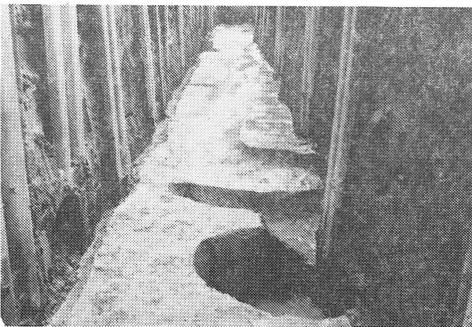
表② 事業者別届出・通知件数

事業者 \ 年度	昭 55	5 6	5 7	5 8	5 9	6 0
国・公社・公団	1	2	6	17	20	—
大阪府	1	1	1	5	7	8
松原市	3	30	49	50	54	84
関電・大阪ガス	56	57	94	118	105	134
一般業者	12	8	12	29	32	23
個人	50	42	90	65	55	123
N T T	—	—	—	—	—	18
その他	—	—	—	—	—	2
合計	123	140	252	283	273	392

表③ 調査件数

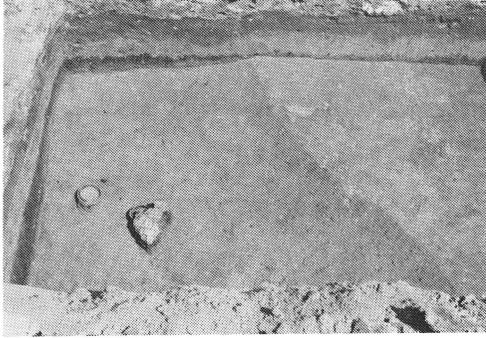
調査内容		年度					
		昭 55	56	57	58	59	60
立 会 調 査		34	16	7	17	15	24
試 掘 調 査		1	2	6	12	74	74
発掘調査	予備調査	48	47	66	62	57	90
	本調査	2	3	4	3	7	7
合 計		85	68	83	94	153	195

(4) 発掘調査成果



① 天美西3丁目所在遺跡（調査地番：天美西3丁目地内）

古墳時代を中心とした一大集落址の、大和川今池遺跡東部に位置する遺跡である。調査は、下水道管布設工事に伴う事前調査として、40㎡について実施された。工事が下水道管布設の為、調査は困難を窮めたが、弥生時代後期から鎌倉時代前期の溝、土壇、ピット等の遺構が検出され、それらの遺構からは弥生時代の壺、甕、鉢、高坏、古墳時代以降の土師器壺、甕、平安時代から鎌倉時代前期の瓦器塊、瓦、陶器等の遺物が出土した。

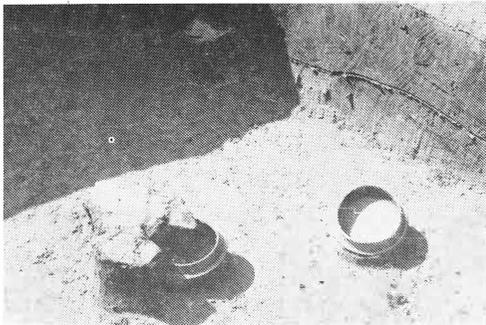


② 阿保 2 丁目所在遺跡〔調査地番：阿保 2 丁目  
132 - 1 〕

調査は個人住宅建設に伴う事前調査として実施した。約 13  $m^2$  という非常に小規模の調査のため遺跡の状況は明らかではないが、古墳時代後期初頭の溝と、土壇が検出された。

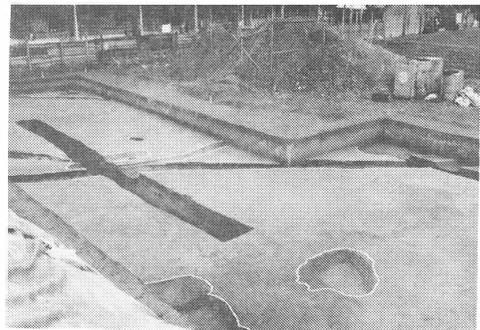
溝の幅は確認出来なかったが、深さは約 40  $cm$  を測り、溝底からは須恵器の甕・蓋坏・高坏や、土師器の皿・甕・製塩に使用された師楽式土器等の完形品や破片が多量に出土した。

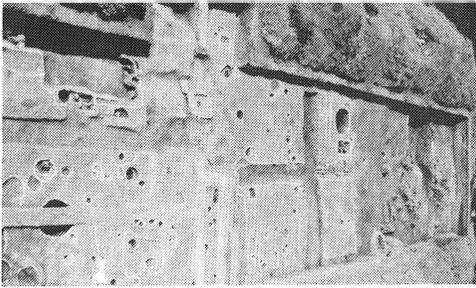
この時代の遺構は、南向いの市立松寿苑用地の調査においても、掘立柱建物や、溝等が発見されており、古墳時代の中期から後期にかけて、この地域周辺に集落が存在したと考えられ、今後の調査が期待される。



③ 高見の里 4 丁目所在遺跡〔調査地番：高見の  
里 4 丁目 855 - 1 〕

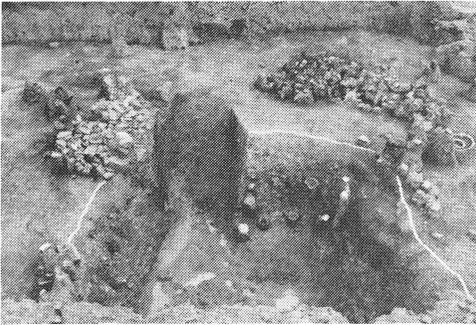
調査は分譲住宅建設に伴う事前調査として、220  $m^2$  について実施された。調査の結果、縄文時代晩期から鎌倉時代に至る遺構、遺物が検出された。遺構は上層と下層の 2 面検出され、上層遺構は古墳時代後期～鎌倉時代の溝、土壇、ピット等が検出された。下層遺構は上層を約 50  $cm$  掘り下げたところから、南北方向に流れる幅 12  $m$  以上、深さ 1  $m$  以上の自然河川が検出された。この河川内には多数の流木が散在しており、これらの流木に混じって縄文時代晩期の土器や石鏃等が出土している。





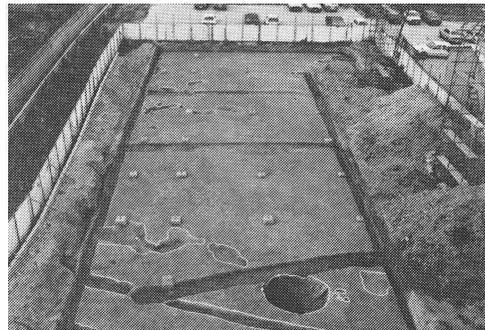
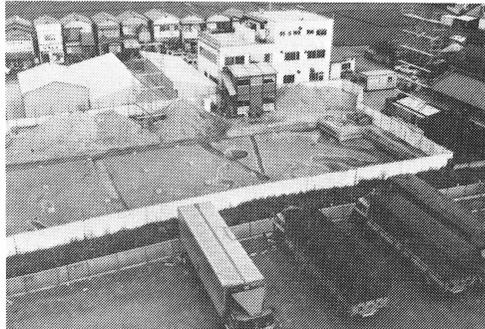
④ 岡5丁目所在遺跡〔調査地番：岡5丁目478-1〕

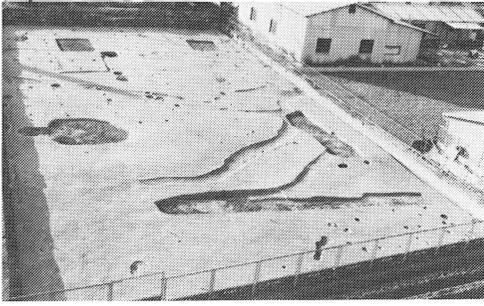
調査は分譲住宅建設に伴う事前調査として、240㎡について実施された。調査の結果、平安時代の後期から近世に至る数棟の掘立柱建物、井戸2基、溝、池状遺構等が検出された。建物の多くは平安時代後期から鎌倉時代前期にかけて、何度も建て替えられた状況であった。この他建物の北側に池状遺構が検出されており、この中から大量の遺物が出土している。遺物の多くは当時の日常雑器である瓦器碗・皿・盃、土師質皿等が数を占めていた他、石鍋や中国製の青磁・白磁の碗、あるいは軒丸瓦（梵字文・蓮華文）、鬼瓦、丸瓦、平瓦等の瓦類が出土している。これらの遺物から周辺に寺院遺構の存在が考えられ、今後の周辺調査によって、その位置も具体的になっていくと思われる。



⑤ 一津屋町所在遺跡（調査地番：一津屋町237他）

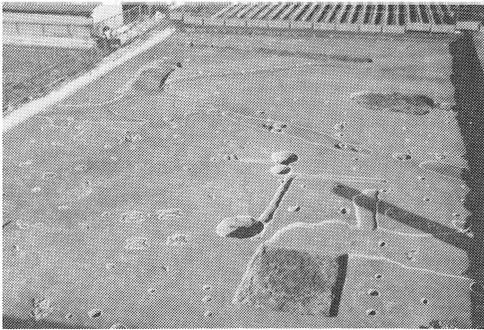
調査は分譲住宅建設に伴う事前調査として、880㎡について実施された。調査の結果、縄文時代晚期から近世に至る遺構・遺物が出た。遺構は上層と下層の2面検出され、上層遺構は近世以後の畑作等に伴う多数の溝と灌漑用の井戸1基が検出された。下層からは溝、土塚の中から縄文時代晩期の甕が出土している。その他、古墳時代後期初頭の須恵器、土師器、鎌倉時代の瓦器、瓦等とともに円筒埴輪が出土しており、この周辺地域に後世の開墾によって消滅してしまった古墳の存在が考えられる。



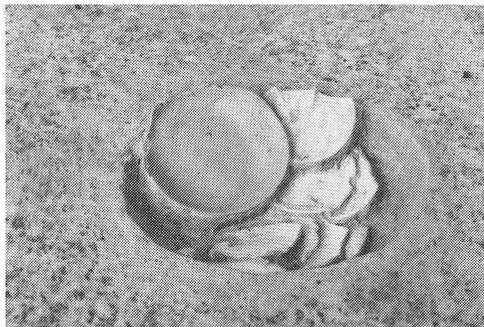
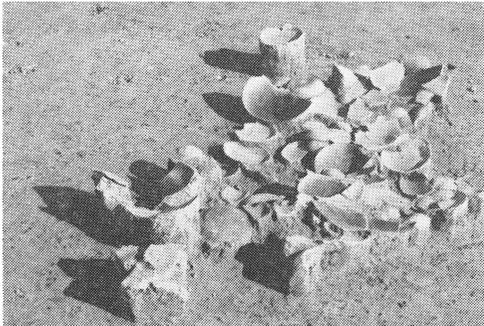


⑥ 丹比柴籬宮跡〔調査地番：新堂1丁目594-2他〕

調査は、総合福祉会館建設に伴う事前調査として、920㎡について実施された。調査の結果、古墳時代中期初等に大規模な洪水によって埋没したと思われる大溝が下層から発見され、また上層からはこの溝の埋没後、古墳時代中期及び平安時代から鎌倉時代にかけて営まれた集落跡が検出された。



大溝は幅が数十m、深さは約3mを測り、最も深い所から晩期の縄文式土器が出土し、その他弥生土器・古墳時代前期の土師器等大量の遺物が出土している。また上層の遺溝は、住居址（掘立柱建物）が数棟、井戸4基、溝等が検出され、それらの遺溝等からは当時使用していた日常雑器としての黒色土器、瓦器、土師器碗・皿・鍋等や、中国・朝鮮から輸入された陶磁器等が多量に出土し、建物の柱穴からは、乾元大宝（皇朝十二銭といわれる奈良・平安時代にわが国で鑄造された最後の貨幣）も出土している。この地域は、平安時代から鎌倉時代にかけて京都の広隆寺所領の荘園であり、在地荘園管理者の邸跡とも見られ、今後の調査が期待される。



# ○市歌

(昭和30年9月27日)  
設 定

M.M.J = 108

上嶋久恵 作詞  
春志邦三 補作  
樋口昌道 作曲

あかるく おおらかに

な に わ の み な み い に し え の  
は じ の み か ど の く ら い せ し れ  
き し か が や く ま つ ぼ ら し わ  
れ ら の き ょ う 一 ど あ あ う る わ し や

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <p>三、<br/>われらの郷土<br/>朝日に映ゆる<br/>高き文化の色<br/>平和の松の旗<br/>ああ栄あれ</p> | <p>二、<br/>われらの郷土<br/>黎明つぐる<br/>仰ぐ金剛<br/>産業日々に<br/>ああ光あれ</p> | <p>一、<br/>われらの郷土<br/>歴史かがやく<br/>浪花の南<br/>反正のみかどの<br/>ああ美わしや</p> |
|---|---|---|

## 松原の教育

(昭和60年度版)

発行日 昭和61年3月  
発行所 松原市教育委員会  
編集 管理部 総務課  
TEL (0723) 34-1550(代)  
印刷 株式会社 阪堺出版印刷  
TEL (06) 678-5865